



寺子屋 オレンジキッズ

支援プログラム

私たちの想い

「保育×療育」でお子様の「できた！」を大切に

お子様の「なにこれ！やってみたい！」という気持ちを尊重し安心してご利用いただけるようにサポートします。

それぞれのお子様に応じて個々にプログラムを作成し、一人ひとりが持つ可能性を最大限に引き出します。

支援の大まかな流れ

◆ アセスメント（初期評価）

- ・ 保護者の方からの聞き取り情報
- ・ K式発達検査
- ・ 行動観察
- ・ 感覚統合学会が提供しているチェックリストに基づいた評価
- ・ 遊び方や巧緻・協調運動（手先の器用さや身体の動きの協調）、認知・適応行動技能（考える力や生活に適應する力）などについて、年齢に応じてどの程度発達しているかを評価

◆ 個別支援計画の立案

- ・ 目標設定（5領域に基づく）
- ・ サービス担当者会議や面談の機会を設けて情報共有

◆ 支援の実施

- ・ 個別/集団による支援を実施
- ・ その日の記録をして、職員間で情報共有

◆ 評価・フィードバック

- ・ 現状取り組んでいることとその成果を面談やお子様の様子、お電話などを通して情報共有



＜健康状態の維持・改善＞

健康状態の把握と対応

健康な心と体を育て、健康で安全な生活を作り出すことを支援する。また、こどもの心身の状態をきめ細やかに確認し、平常とは異なった状態を速やかに見つけ出し、必要な対応をすることが重要である。その際、意思表示が困難であるこどもの障害の特性及び発達の過程・特性等に配慮し、小さなサインでも心身の異変に気づけるよう、きめ細かな観察を行う。

リハビリテーションの実施

日常生活や社会生活を営めるよう、それぞれのこどもが持つ機能をさらに発達させながら、こどもに適した身体的、精神的、社会的支援を行う。

＜生活習慣や生活リズムの形成＞

睡眠、食事、排泄等の基本的な生活習慣を形成し、健康状態の維持・改善に必要な生活リズムを身につけられるよう支援する。また、健康な生活の基本となる食を営む力の育成に努めるとともに、楽しく食事ができるよう、口腔内機能・感覚等に配慮しながら、咀嚼・嚥下の接触機能、姿勢保持、手指の運動機能等の状態に応じた自助具等に関する支援を行う。さらに、衣服の調節、室温の調節や換気、病気の予防や安全への配慮を行う。

＜生活習慣や生活リズムの形成＞

生活に必要な基本的技能の獲得

こどもが食事、排泄、睡眠、衣類の着脱、身の回りを清潔にすること等の生活に必要な基本的技能を獲得できるよう、生活の場面における環境の工夫を行いながら、こどもの状態に応じて適切な時期に適切な支援をする。

構造化等による生活環境の調整

生活の中で、様々な遊びを通じた学びが促進されるよう環境を整える。また、障害の特性に配慮し、時間や空間を本人に分かりやすく構造化する。

医療的ケア児への適切なケアの実施

適切に医療的ケアを受けられるよう、こどもの医療濃度に応じた医療的ケアの実施や医療機器の準備、環境整備を行う。

＜生活におけるマネジメントスキルの育成＞ (放課後等デイサービスのみ)

障害の特性や身体各部の状態について理解し、それらが及ぼす生活上の困難や補助機器を用いる際の留意点等について理解を深め、状況に応じて、自己の行動や感情を調整したり、他者に対して主体的に働きかけたりしてより生活しやすい環境にしていくための支援をする。また、自分で何をするかアイデアを出しながら、自分の生活をマネジメントすることができるよう、こどもの意向を受け止めながら、自分で組み立ててできる行動を増やしていけるよう支援する。



健康・生活

—当施設で提案する支援例—

最優先すべきは「楽しい！」という気持ちを持って通所し、活動に対して「できたぞ！」という達成感を持つこと！

この気持ちを持たずして、お子様の支援は成り立ちません！そのためには、日々の支援内容を考え、変更・継続していきます。

児童発達支援・放課後等デイサービスの支援例



毎日の健康状態をチェック

来所時に体温チェック、連絡ノートや送迎時を通してお子様の体調を確認

生活リズム作りのサポート

活動前の準備、お片付け、帰りの準備などを自立して行い、1日の流れを把握できるようにサポート。

「朝に保育園への行き渋りがあり、朝の決まった時間に保育園に通うことができていない」という保護者の方からの悩みに寄り添い、朝に当施設に来所してもらいスムーズに保育園へ来所できるように支援をする。そのために、「オレンジキッズは楽しい場所！はやく行きたい！」と思ってもらえる活動を提案する。

学校から帰ってきてから行うべきこと（宿題など）の管理を職員が一緒に行う。この時、お子様の体力や情緒を考慮し、継続して行える内容を提案する。

清潔習慣・トイレトレーニング

手洗いやうがいの習慣を身につけるために、職員と一緒にを行う。

トイレへの嫌悪感を取り除く。

基本的な生活スキルの習得

衣服の着脱（靴下、ボタン、ファスナー）の練習を実施。

活動する空間を理解する

色の違うマットで活動環境を区切り、色などのその他の認知機能で空間の区切りを分かりやすくする。

パーテーションや個別室を活用するなど、お子様の特性に合わせた環境で支援を実施する。

お子様のやりたい気持ちを尊重する

「これがやってみたい！」「次はこうやってやってみようかな？」など、お子様が持つアイデアを大切に尊重した声掛けの仕方や活動方針にする。当初、別の活動内容を職員が考えていたとしても、その場でのお子様の反応や行動を大切に、臨機応変に活動内容と対応を変更していく。

情緒や活動の管理をする

1. 最初は職員と一緒に自身の気持ちや活動内容について考える。
2. 行うべきことや自身の気持ちに気付けるようにアプローチを行う。
3. 対処法が理解できてきたら、それらを自身で管理していけるように支援をする。そのためには、特にマイナスな気持ちになった時の対処法「（その場所から逃げる）（困った時には職員に聞いて見る）など」をしっかりと練習していく。この時、自発的に行動することが大切であることから、職員からの行動を待つ必要がある時点では、「1」の内容の支援を実施する。



運動・感覚

—児童発達支援・放課後等デイサービスガイドライン—

<姿勢と運動・動作の基本的技能の向上>

日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善及び習得、関節の拘縮や変形の予防、筋力の維持・強化を図る。

<姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用>

姿勢の保持や各種の運動・動作が困難な場合、姿勢保持装置など、様々な補助用具等の補助的手段を活用してこれらができるよう支援する。

<身体の移動能力の向上>

「児童発達支援の内容」

自力での身体移動や歩行、歩行器や車椅子による移動など、日常生活に必要な移動能力の向上のための支援を行う。

「放課後等デイサービスの内容」

自力での身体移動や歩行、歩行器や車椅子による移動など、日常生活に必要な移動能力や、事業所外での移動や交通機関の利用など、社会的な場面における移動能力の向上のための支援を行う。

<保有する感覚の活用>

保有する視覚、聴覚、触覚、嗅覚、固有覚、前庭覚等の感覚を十分に活用できるよう、遊び等を通して支援する。

<感覚の補助及び代行手段の活用>

障害の状態や発達の段階、興味関心に応じて、保有する感覚器官を用いて情報を収集し、状況を把握しやすくするよう、眼鏡や補聴器等の各種の補助機器やICTを活用することや、他の感覚や機器による代行が的確にできるよう支援する。

<感覚の特性への対応>

感覚の特性（感覚の過敏や鈍麻）を踏まえ、感覚の偏りに対する環境調整等の支援を行う。



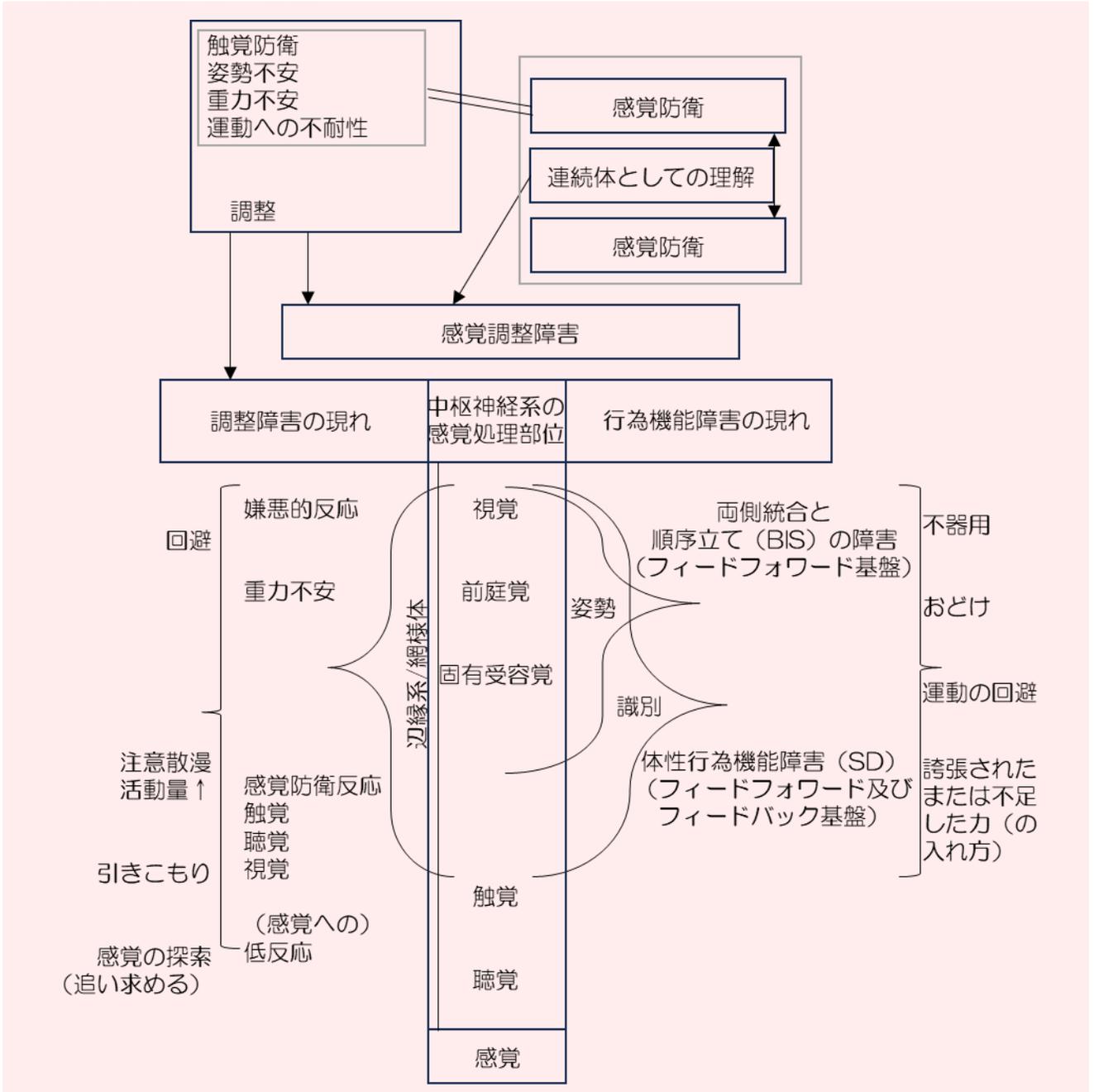
運動・感覚

—感覚とは—

感覚は、外界や身体内部から得られる情報を脳に取り込み、それをもとに情動や認知、行動などを成立させる基盤的な機能を担っています。感覚統合療法（Sensory Integration Therapy）は、外部からの感覚情報（視覚・聴覚・触覚など）を脳が整理・統合する能力を高めることを目的としています。

近年は、感覚調整障害を単に「刺激に対して反応が低い ↔ 反応が高い」という1次元的な捉え方だけではなく、「神経学的閾値がどの程度か」という軸と、その閾値に応じた「行動反応がどのようにあられるか」という軸の2つを組み合わせ、4つの領域として整理するモデルが提案されています。これにより、感覚調整障害をより多面的に理解しようとする試みがなされています。

感覚統合理論の図式的表現



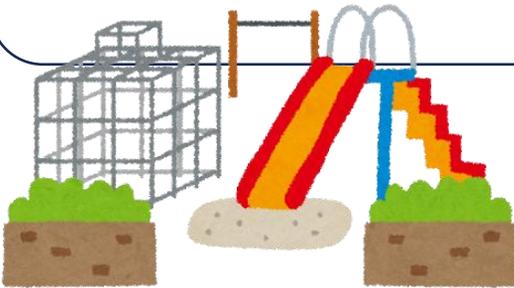
運動・感覚

—感覚とは—

神経学的閾値 /反応性	行動反応/自己調節ステラテジー	
	受動的	能動的
高	低登録 感覚刺激に対する無視もしくは低い反応性を示す。閾値が高いため刺激に対する生理学的反応性は低い。	感覚探求 豊かな感覚刺激から得られる楽しみと自己刺激行動を示す。閾値が高いため刺激に対する生理学的反応性は低いが、これを補うために刺激を追い求める行動が生じる。
低	感覚過敏 刺激による混乱、刺激の選別の困難さ、感覚刺激への不快感を示す。閾値が低いため刺激に対する生理学的反応性は高い。	感覚回避 感覚刺激に対する限定された探索行動を示す。閾値が低いため刺激に対する生理学的反応性が高い。この結果、これらの刺激から引きこもる行動が生じる。

触覚防衛・重量不安・姿勢不安・運動への不耐性・調整・感覚登録・感覚防衛・感覚休眠・高反応性/低反応性の連続体・感覚調整障害 など

感覚の不安定さの種類にも特徴があります。

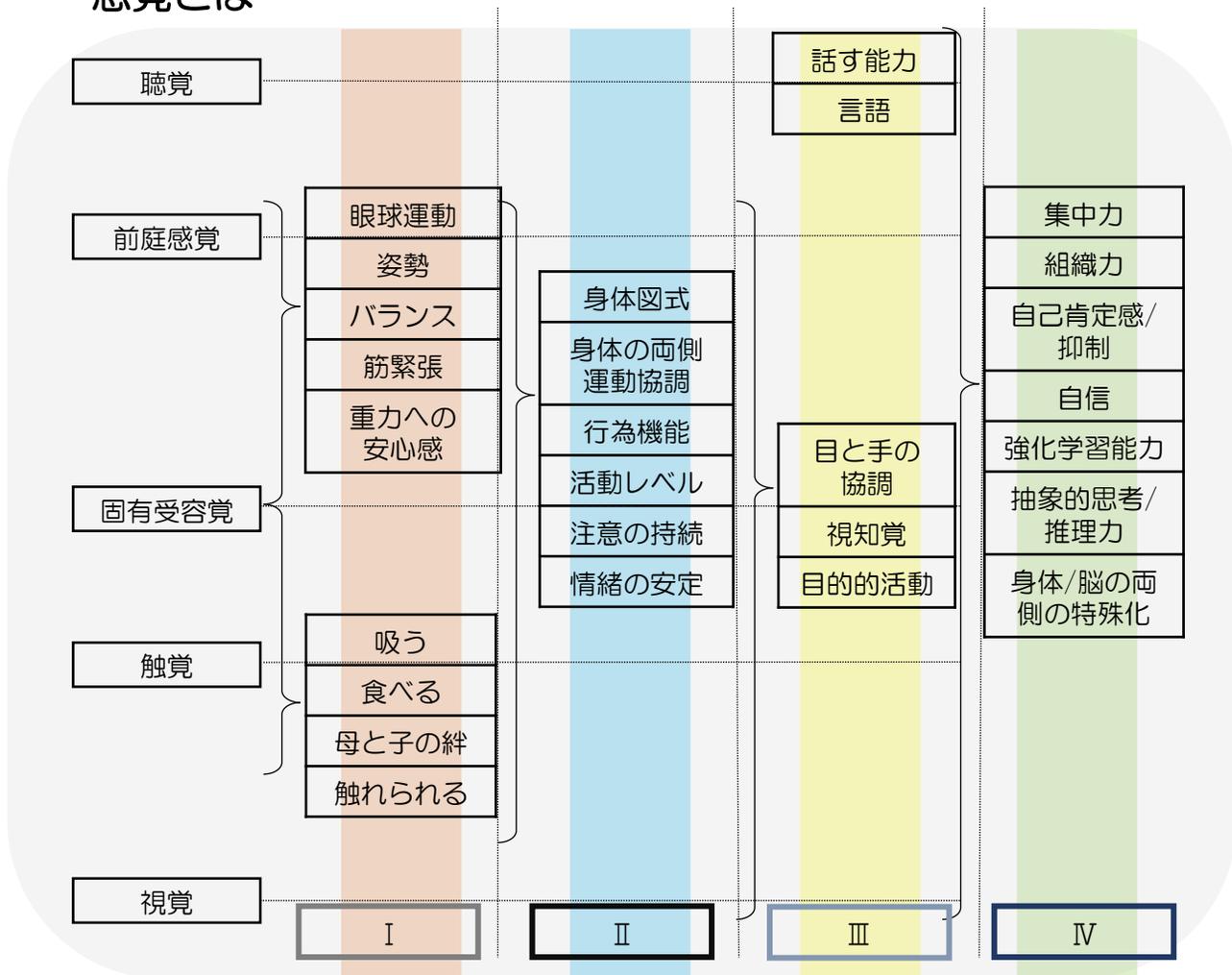


感覚の領域は、ただ運動を支えるだけでなく、多様な能力を育む土台にもなっています。単に感覚的な欲求を満たすだけでなく、そこから派生して他のスキルや動作へとつなげていくことが大切です。オレンジキッズではこのような観点を基礎に置き、「動作」「話す」「考える」などのさまざまな能力を、発達段階に応じて分類しながら支援を行っています。



運動・感覚

—感覚とは—



僕たちの身体や気持ちの土台を作っているのは感覚！

感覚面から「なぜ集中ができないのか」「姿勢バランスが安定していないのか」などを考えていくことも大切だよ！



運動・感覚

—当施設で提案する支援例—

児童発達支援・放課後等デイサービスの支援例

サーキットで身体を動かそう！

サーキットで身体を動かす際には、その日や時間帯ごとに運動内容を必ず変更する。さらに、お子様の特性に合わせたサーキットコースを提案し、楽しみながら身体を動かす中で身体の使い方を学んでもらうことを目的とする。

特定動作へのアプローチとは、その動作を構成する運動要素や感覚要素を詳細に分析し、必要な筋力・関節可動域・協調性・感覚フィードバック（触覚・固有受容覚など）を考慮したうえで、個別の課題を段階的かつ集中的に設定する方法である。

道具の操作を練習しよう！

日常生活動作（ADL）で頻繁に用いられるツールや文房具などに対する操作技能の獲得を目的とした訓練を行う。また、それらのツールを適切に使用するための手指の姿勢や把持方法、必要な運動連鎖を身につけるべく、複数の感覚入力や運動課題を含む別のアクティビティを提案する場合もある。

年齢、段階別の身体動作チェック（評価）

年齢や発達段階に応じて整理された身体動作の指標を基盤に、各お子様の身体使用パターンを分析し、運動発達や身体能力を総合的に評価する。

感覚分野へのアプローチ

感覚統合理論に基づき、専用の器具を用いて前庭覚などへの刺激となる多様な運動に取り組むとともに、必要な感覚入力を得るための効果的な運動を提案する。さらに、固有覚の活性化や普段は触れる機会の少ない素材への触覚刺激など、複数の感覚領域を包括的にアプローチする。



放課後等デイサービスでは、こうした日常生活に必要な動作、配慮すべき感覚に加えて、就労に向けた支援も行っているんだ！

就Bや就Aなどで実際に作業している、工具の仕分けや畑作業なども体験してもらいながら、それぞれのお子様の特性やこれから必要なことの支援をしているよ！

基本的な身体技能の向上も必要だけど、その作業や場面に応じて使用する道具に慣れる練習も大切だからね！



運動・感覚

—より具体的な支援の流れ—

1. 身体の動かし方/道具の操作に関する主な悩み

- 姿勢が安定しない：椅子に座り続けることが難しかったり、立位でバランスを崩しやすい。
- 運動のプランニングが苦手：ジャンプや階段昇降など、複数ステップを要する動作をスムーズに行えない。
- 協調性の低さ：走る、跳ねる、投げるなどの粗大運動や、両手を一緒に使う動きがぎこちない。

2. 身体の動かし方に対する具体的なアプローチ

◇ コア・筋力強化

- バランスボールやバランスディスク上で体幹を意識させるエクササイズを取り入れる。
- 四つ這い姿勢で体重移動を行うなど、体幹・肩甲帯を安定させるプログラムを段階的に実施。

◇ バランス練習・サーキット

- 平均台やマット、ソフトブロックなどを組み合わせたサーキットを作り、遊び感覚でバランスやジャンプ動作を練習する。
- 高さや難易度を調節し、成功体験を積み重ねる。

◇ 動作の分解・視覚支援

- 「足をひらく→手を伸ばす→ジャンプ」のように動作をステップごとに分解し、イラストや写真カードでわかりやすく提示する。
- 一緒に動作をやって見せる（モデリング）ことで、具体的なイメージをもたせる。

◇ 両側協調の強化

- 両手でボールを受け渡す、タオルを引っ張り合う、紐を結ぶ練習など、左右の手を協調させる遊びを取り入れる。
- リズムに合わせて拍手やステップを踏むなど、音やビジュアルと組み合わせて協調性を促す。

3. 道具の操作に関する主な悩み

- 筆記用具の把持が不安定：鉛筆やクレヨンを握る力加減がわからず、上手く線や文字が描けない。
- はさみ操作がぎこちない：手や指のどこに力を入れていいかわからず、紙をうまく切れない。
- 箸やスプーンなどの食具操作が苦手：食事動作でこぼしが多い、正しい持ち方を維持しづらい。

4. 道具の操作に対する具体的なアプローチ

◇ 段階的な微細運動練習

- ビーズや小さなピースをつまむ、粘土をちぎる・丸めるなど、手指の分離や器用さを促す遊びをまずは十分に行う。
- 指先の感覚入力を増やすために、スライムや砂遊びなどで触覚刺激を取り入れる。

◇ アダプテッド器具の活用

- 筆記用具：三角軸のクレヨンや鉛筆、専用のグリップを用いて正しい把持姿勢を誘導する。
- はさみ：バネ機能付きで自動的に刃が開くタイプを使う、刃先が短い子ども向けはさみを選ぶ。
- スプーン・フォーク・箸：グリップが太めのものや滑り止め付きのものを使う。

◇ 正しい持ち方を視覚化・分解

- 鉛筆の正しい持ち方を写真やイラストで示し、「どこに指を置くか」を指導。必要に応じてペン先にシールを貼り、視点の誘導や位置の目印を作る。
- はさみ操作も「親指を上、残りの指は下の穴に入れる」など、手順を具体的に伝える。

◇ 運動と組み合わせたサーキット形式の練習

- 大きな紙を壁に貼り、ジャンプで届く高さに印をつけてクレヨンで描くなど、全身運動と連動して楽しみながら筆記用具に慣れる。
- 細かい紙をはさみで切り取り、最後に色分けして貼るアート制作など、ステップを踏んだ活動にする。

◇ モデリングと反復

- セラピストや指導者がゆっくり手本を示し、子どもが同じ動きを真似する（モデリング）。
- 日々短い時間でも繰り返し取り組み、運動感覚の定着と成功体験を積み重ねる。



認知・行動

一児童発達支援・放課後等デイサービスガイドライン

<認知の特性についての理解と対応>

一人ひとりの認知の特性を理解し、それらを踏まえ、自分に入ってくる情報を適切に処理できるよう支援する。また、こだわりや偏食等に対する支援を行う。

<対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得>

感覚の活用や認知機能の発達

視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分活用して、これらの感覚から情報が適切に取得され、認知機能の発達を促す支援を行う。

知覚から行動への認知過程の発達

取得した情報を過去に取得した情報と照合し、環境や状況を把握・理解できるようにするとともに、これらの情報を的確な判断や行動につなげることができるよう支援を行う。

認知や行動の手掛かりとなる概念の形成

物の機能や属性、形、色、音が変化する様子、大小、数、重さ、空間、時間等の概念の形成を図ることによって、それを認知や行動の手掛かりとして活用できるよう支援する。

<行動障害への予防及び対応>

感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生ずる行動障害の予防及び適切行動への対応の支援を行う。



児童発達支援・放課後等デイサービスの支援例

形の弁別ができるようになろう！

触覚を併用した形の学習では、手で触れて形を確かめる活動を行う。視覚による形の弁別が難しいお子様の場合にこの活動を提案する。

視覚的弁別訓練では、「丸、三角、四角」といった幾何学図形の弁別を行う。

日常生活で使用する物（コップやお皿など）の弁別を行う。

同じ形を見つける課題を提案し、形の概念を学んでいく。

お話を聞いて理解する練習をしてみよう！

単語レベル、文章レベルで聞き取りがどれくらいできているのか、様々な支援を通して評価をする。

視覚からの情報と組み合わせて、聞くだけでは理解することが難しい部分へアプローチをする。

絵本の読み聞かせを行い、理解度チェックを行う。

色々な物に触れて、手の平の触覚から入る感覚を養おう！

スライム、粘土、シャボン玉遊び、泥んこ遊びなどお子様の興味をひきやすい素材を用意する。段階的に支援を進める中で、触れることに対する反応を評価していく。

はさみ、鉛筆、クレヨンなど、手指を使う道具の操作練習を行い、握る・離す・ねじるなどの一連の動作で触覚への意識を高める。

大きな動作、小さな動作の模倣を獲得しよう！

姿勢と動作（粗大と微細）の模倣を通して、前額面的な捉え方のみをしているのか、三次元的に捉えているのかなど、物の見え方の評価や自分自身の身体についてどの程度理解が進んでいるのか評価を行う。

分類の学習をしよう！

形、色、用途など様々な分類の課題を設定する。基本はプリント形式で実施するが、プリントの理解が難しい場合は、実物を使用する。

数量、数詞、文字、数順等、数に関わる知識を身につけよう！

具体物を使用し、1対1の対応を理解する。

支援の中で「〇〇を△つ持ってきてください」などの声掛けをして、実際に理解しているのか確かめる。

数詞を唱えながら、その数だけブロックや積み木を積み上げる。

数字カードを並べ、視覚的に数の順番を確認する。

多い、少ない、さらに大きい、小さいといった比較概念を取り入れ、数を扱う経験を積み上げる。



児童発達支援・放課後等デイサービスの支援例

比較、序列化の練習をしよう！

大小、長短、重軽などの比較体験をする。

比較対象を増やして実践する。

体験を積み重ねた先でプリント学習に望む。

苦手とする感覚に対する対策を一緒に学んでいこう！

感覚や活動に対して嫌悪的反応を示す場合、その反応を示す原因を探りアプローチをする。

「どうすれば良いのか」を明確に伝えていく！

【「走らないで！」ではなく、「ゆっくり歩こうね」と伝えたと、お子様は「どう行動すれば良いのか」理解することができ、走る回数が少なくなる。】

オレンジキッズでは、肯定的なフィードバックを行いながら、職員と信頼関係を構築した先で、「ではどうすればよいのか」を一緒にお子様と考える。

動作・運動をする時にどこのステップで躓いているのか把握する！

動作・運動をする時に、「観念化（アイデアを持つ）」⇒「運動を計画する」⇒「実行する」の3ステップがある。

お子様がそれぞれの動作や運動が上手くできない時、どこのステップで躓いているのか把握して、必要な部分にだけ支援を実施する。

そうすることで、お子様の得意とする部分は自発的に自立して行ってもらうことができ、一つ一つの取り組みに意味を持たせることができる。

このステップで動作・運動を考える場合、はじめに動作・運動に対してアイデアを持つ必要がある。お子様が「〇〇やってみようかな」と思うためには、動機づけ（モチベーション）が必要です。

動機づけには、大きく分けて「内発的動機づけ」と「外発的動機づけ」の2種類があるが、この支援で必要なのは、内発的動機づけである。

「〇〇（苦手なこと）ができたら、□□（好きなこと）しようね」は、外発的動機づけである。アイデアを持つことは、お子様自信が引き出すもので、そのためには、遊びや活動自体がそのお子様にとってのご褒美とならなければならない。

これが、内発的動機づけに基づく活動で、支援の原則となる。

よく保護者の方から「興味の幅が狭く、決まったことや玩具でしか遊ばない」とご相談があります。この時に、外発的動機づけでそのお子様の活動の幅を広げていくのではなく、お子様が自ら興味を持ち行動する内発的動機づけが大切です！

そのためには、「〇〇をしたら～・・・」ではなく、「健康・生活」で記載したような、環境を整えていくことが支援の基盤となります！



放課後等デイサービスの支援例

小学生以上のお子様になると、基礎的な認知力だけではなく、教科学習や求められる抽象的思考の領域がどんどん広がり難しくなります。

また、宿題は「やりたくないいなあ・・・」という気持ちになってしまうものです。

宿題のような「嫌だけど・・・」の気持ちがあるものについては、「宿題が終わったら、□□（好きなこと）しようね」などの声掛けも有効です。

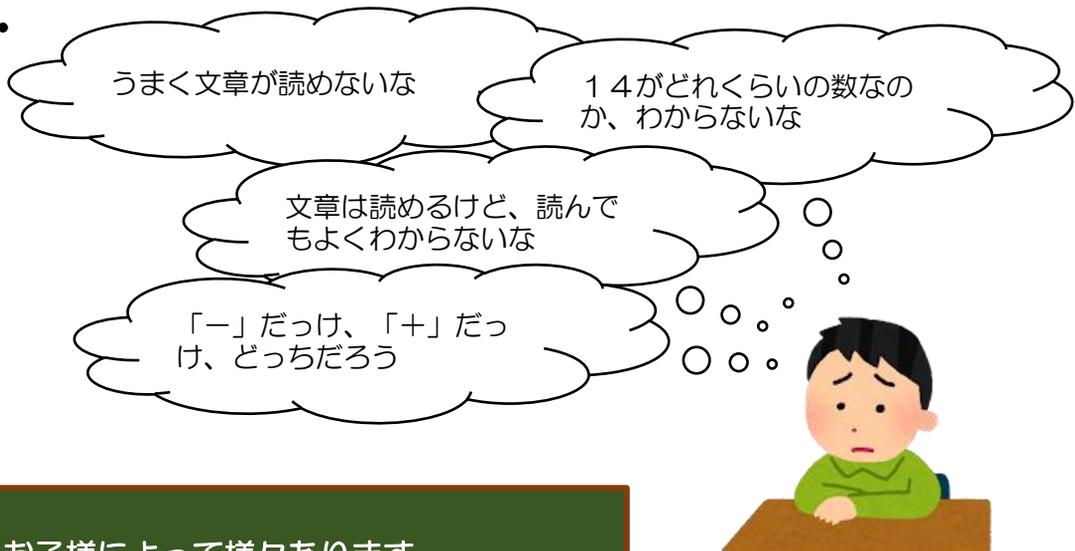
大切なことは「どこで躓いているのか」をしっかりと把握することです。

たとえば・・・

りんごが14こありました。そのうち けんしろくんが7こ食べました。
そのあと、おかあさんがりんごを4こかってきてくれました。
いま りんごはなんこあるでしょう。

という文章問題があったとします。

この時・・・



悩みはお子様によって様々あります。
その悩みの原因に対してアプローチしていくことが大切です。



言語・コミュニケーション

一児童発達支援・放課後等デイサービス ガイドライン

<コミュニケーションの基礎的能力の向上>

障害の種別や程度、興味関心等に応じて、言葉によるコミュニケーションだけでなく、表情や身振り、各種の機器等を用いて意思のやりとりが行えるようにするなど、コミュニケーションに必要な基礎的な能力を身につけることができるよう支援する。

<言語の受容と表出>

話し言葉や各種の文字・記号等を用いて、相手の意図を理解したり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し表出することができるよう支援を行う。

<言語の形成と活用>

「児童発達支援の内容」

具体的な事物や体験と言葉の意味を結びつけること等により、自発的な発声を促し、体系的な言語を身につけることができるよう支援する。

「放課後等デイサービスの内容」

コミュニケーションを通して、事物や現象、自己の行動等に対応した言語の概念の形成を図り、体系的な言語を身に付けることができるよう支援する。

<人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得>

個々に配慮された場面における人との相互作用を通して、相手と同じものに注意を向け、その行動や意図を理解・推測するといった共同注意の獲得等を含めたコミュニケーション能力の向上のための支援を行う。

<コミュニケーション手段の選択と活用>

指差し、身振り、サイン等の活用

指差し、身振り、サイン等を用いて、環境の理解と意思の伝達ができるよう支援する。

手話、点字、音声、文字等のコミュニケーション手段の活用

手話、点字、音声、文字、触覚、平易な表現等による多様なコミュニケーション手段を活用し、環境の理解と意思の伝達ができるよう支援する。

コミュニケーション機器の活用

機器（パソコン・タブレット等のICT 機器を含む。）等のコミュニケーション手段を適切に選択、活用し、環境の理解と意思の伝達が円滑にできるよう支援する。

<状況に応じたコミュニケーション>

コミュニケーションを円滑に行うためには、伝えようとする側と受け取る側との人間関係や、そのときの状況を的確に把握することが重要であることから、場や相手の状況に応じて、主体的にコミュニケーションを展開できるよう支援する。

<読み書き能力の向上>

発達障害のあるこどもなど、障害の特性に応じた読み書き能力の向上のための支援を行う。



言語・コミュニケーション

—当施設で提案する支援例—

児童発達支援・放課後等デイサービスの支援例

様々な活動で言葉の理解を深めていこう！

【ごっこ遊び（ままごと・お店屋さんなど）の活用】

おままごとセットやお店屋さんごっこ用の道具を使い、物の名前（野菜、果物、道具など）や動作（切る、混ぜる、買う、売る）を声に出しながら遊ぶ。

「いらっしゃいませ」「これください」などのやり取りを実践し、言葉のやり取りを楽しむ。

【玩具での場面づくり】

電車や車などの乗り物玩具、フィギュアを使い、子どもと一緒にストーリーをつくって遊ぶ。

「どこに行くの？」「だれが乗っているの？」など具体的な質問をしながら、語彙を広げる。

【絵カード・写真カードの活用】

実物写真やイラストカードを用意し、「これは何かな？」と問いかけたり、動作をまねたりして語彙を増やす。

シチュエーションカード（食事、外遊び、着替えなど日常生活場面）を並べてストーリーを作り、時系列の言葉（「まずは…」「次に…」「最後に…」）を学ぶ。

【言語理解クイズ・カード合わせ】

カードを裏向きにして神経衰弱のようにめくり「同じものはどこ？」と探す活動を通して、物の名称や特徴（色・形）を確認する。

「どっちが〇〇？」という二択クイズで、子どもの受容言語（理解）を確認しながら楽しく練習する。

身体を動かす活動を小集団で取り組み

場面ごとに応じたコミュニケーション方法を学んでいこう！

【簡単な運動遊び（サーキット）】

マットや平均台、フープなどを使い、順番に進むサーキット遊びを小集団で実施。

子ども同士「次どうぞ」「がんばれ」など声をかけ合う場面をつくり、応援・指示などの言葉を使う機会を増やす。

【音楽やリズム体操】

手遊び歌やダンスを取り入れ、「一緒にやってみよう」「次は手を上にあげて」など声をかけながら、自然に身体を動かす。

グループ内でアイコンタクトや合図を送ることで、相手に合わせて動く・待つといったコミュニケーションが生まれる。

【ボールや風船を使ったゲーム】

ボール投げリレーなど、子ども同士が協力する場面で「はい、どうぞ」「パスして」など簡単な言葉のやり取りを練習する。

風船バレーやソフトボールキャッチなど、動作そのものは簡単でもタイミングを合わせる必要がある遊びを通して、状況に応じた声かけ・行動の調整を学ぶ。

【小集団でのルール確認・振り返り】

活動前に「どうやって遊ぶ？」「何が必要？」を確認し、終わった後に「どうだった？」と感想を言い合う時間を持つ。

活動の合間に「今はだれの番？」「次はどのグループ？」など状況に応じた声かけを大人が促し、子どもが実際に伝えたり聞いたりする経験を積む。



言語・コミュニケーション

—当施設で提案する支援例—

児童発達支援・放課後等デイサービスの支援例

絵カードや模倣を通して理解を深めていこう！

【表情カードを使った理解と表現】

「笑っている」「泣いている」「怒っている」など、表情カードを見せながら同じ顔をまねる。「今の気持ちはどれ？」など、簡単な質問を通して自分や他者の感情を表情で表す練習をする。

【動作カード・模倣遊び】

「走る」「飛ぶ」「拍手する」などの動作カードを見せて、その動作を実際にやってみる。大人が誇張したジェスチャーを見せて、子どもがまねっこして楽しむゲーム（「まねっこ遊び」）。動作そのものを絵や写真で示し、視覚情報と体の動きを結びつける。

【生活動作の模倣と声かけ】

「靴を履く」「手を洗う」「カバンを開ける」などの生活動作を、ステップごとにゆっくりと見せて模倣させる。

一連の動作を絵カードや写真で並べ、子どもが順番通りにやることで、動作と意味を関連づける。

【アイコンタクトやジェスチャーの促進】

一緒に遊ぶときに「次、やってもいい？」など話しかける前に相手を見て合図を送るように促す。ジェスチャー（「おいで」「こっち」「ストップ」など）を言葉と合わせて示し、視覚と音声の両面から理解を深める。

書字と音読の練習をしてみよう！

【困難の原因や特性を把握する】

お子様の認知特性や学習特性を評価する。文字認識や書字運動、音韻認識、語彙力、記憶力など多面的に把握する。

【個別のつまずきポイントを明確にする】

例：ひらがなの形の認識はできるが、書く時に鏡文字になる／音読はできるが理解度が低い／単語の切れ目がわからない、などお子様一人ひとり躓いてしまう部分や原因が異なります。そのため、「字が書けない」＝「文字の繰り返し練習だ！」といった単純な支援の組み立て方はせず、各お子様一人ひとりがステップアップしていけるように段階を踏んでいく。



人間関係・社会性

一 児童発達支援・放課後等デイサービス ガイドライン

<アタッチメント（愛着）の形成と安定>

アタッチメント（愛着）の形成

こどもが基本的な信頼感を持つことができるように、環境に対する安心感・信頼感、人に対する信頼感、自分に対する信頼感を育む支援を行う。

アタッチメント（愛着）の安定

自身の感情が崩れたり、不安になった際に、大人が相談にのることで、安心感を得たり、自分の感情に折り合いをつけたりできるよう「安心の基地」の役割を果たせるよう支援する。

<遊びを通じた社会性の促進>

模倣行動の支援

遊び等を通じて人の動きを模倣することにより、社会性や対人関係の芽生えを支援する。

感覚・運動遊びから象徴遊びへの支援

感覚機能を使った遊びや運動機能を働かせる遊びから、見立て遊びやつもり遊び、ごっこ遊び等の象徴遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。

一人遊びから協同遊びへの支援

周囲にこどもがいても無関心である一人遊びの状態から並行遊びを行い、大人が介入して行う連合的な遊び、役割分担したりルールを守って遊ぶ協同遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。

<自己の理解と行動の調整>

「児童発達支援の内容」

大人を介在して自分のできることや苦手なことなど、自分の行動の特徴を理解するとともに、気持ちや情動の調整ができるように支援する。

「放課後等デイサービスの内容」

自分のできることや苦手なことなど、自分の行動の特徴を理解し、自己を肯定的に捉えられる機会を通じて、気持ちや情動を調整し、状況に応じた行動ができるように支援する。

<仲間づくりと集団への参加>

集団に参加するための手順やルールを理解し、こどもの希望に応じて、遊びや集団活動に参加できるよう支援するとともに、共に活動することを通じて、相互理解や互いの存在を認め合いながら、仲間づくりにつながるよう支援する。



人間関係・社会性

—当施設で提案する支援例—

児童発達支援・放課後等デイサービスの支援例

スキンシップや対面遊びでお子様の安心感を育もう！

大人がこどもの目線に合わせ、やさしく声をかけたり、笑顔で接したりする。

膝の上で一緒に絵本を読む、歌に合わせて手遊びをするなど、身体を通したスキンシップを積極的に行う。

お子様が大人のそばにいる時に“安心していいよ”という雰囲気を与え、信頼感を育む。

不安や困りごとを相談できる“安心の基地”をつくろう！

不安そうな表情や困っている様子を見せたら、近づいて声をかける。

こどもが安心して気持ちを表現できるよう、大人が受容的に耳を傾ける。

「ここは安心していい場所」というメッセージを明確に伝え、“安心の基地”としての役割を果たす。

《模倣行動の支援》

絵カードやパペットを使って非言語コミュニケーションを育もう！

絵カードやパペットなどを使って、大人の動作・声にあわせてこどもが真似をする活動（例：手拍子、ジャンプ、表情あそび）。

歌に合わせて“まねっこダンス”をすることで、動きやリズムを楽しみながら模倣行動を促す。

ふれあい遊びやダンスを楽しんで模倣行動を促そう！

こどもの体に触れるふれあい遊び（「バスにのって」や「ひげじいさん」など）で、動作を一緒に楽しむ。

大人がやってみせた動作（拍手やポーズなど）をこどもが真似することで、社会的な関わりの基礎を学ぶ。

《感覚・運動遊びから象徴遊びへの支援》

感触遊び・運動遊びを通して象徴遊びへステップアップしよう！

粘土やスライム、水や砂場での遊びなど、感覚刺激を楽しむ遊びを用意する。

トンネルくぐりや平均台歩きなど、体を動かして運動機能を育む遊びを行う。

そこから「粘土で食べ物を作るごっこ遊び」や「砂場でおままごと」などに発展させ、象徴遊びへつなげる。

見立て遊びやごっこ遊びで想像力を広げよう！

ブロックを車や飛行機に見立てる「見立て遊び」を促し、物への想像力を育てる。

ままごとやお店屋さんごっこで、大人が役割を演じながらこどもに声をかけ、対話を発展させる。

「今度は〇〇ちゃんがお客さん役をやってみよう」など、少しずつ役を交換していく。



人間関係・社会性

—当施設で提案する支援例—

児童発達支援・放課後等デイサービスの支援例

《一人遊びから協同遊びへの支援》

並行遊びから連合的な遊びへ移れる環境を整えよう！

初めはこどもが好きなおもちゃで一人遊びをしている際に、近くで同じ種類のおもちゃで遊ぶ（並行遊び）。

大人が「〇〇ちゃんのブロック、かっこいいね」「ここにもう一つブロックを足してみようか」などと声をかけ、自然に交流を生み出す（連合的な遊び）。

役割分担やルールを守る協同遊びにチャレンジしよう！

お店屋さんごっこや簡単なボードゲーム、ボール遊びなど、役割分担や簡単なルールのある遊びを体験する。

大人が遊びの進行役となり、「順番を守る」「相手を待つ」などの基本的ルールを一緒に確認する。

最後に「どうだった？」と振り返る時間をつくり、成功体験や次への意欲につなげる。

自分の得意・苦手と一緒に見つけて自己理解を深めよう！

「好きなこと・苦手なことカード」を用意し、大人と一緒に仕分ける。

お子様が得意なことを褒めたり、苦手なことは大人がフォローしつつ「工夫しよう」「手伝ってもらおう」というポジティブな見方を促す。

自己理解を深めるとともに、苦手なことへの不安や感情を言葉にする練習をする。

視覚支援を使って集団遊びの約束ごとをわかりやすくしよう！

集団活動に入る前に、視覚支援（イラストやピクトグラム）を使って流れやルールを明確に説明する。

「まずは輪になって座る → 次に先生の話を聞く → みんなで歌を歌う → 終わったらシールを貼る」など、順番を視覚化して安心感を高める。

小さなグループ活動で協力の大切さを体験しよう！

2～3人の小グループでブロックを組み立てて大きな作品を作る、音楽でセッションをするなど、少人数で協力する場面をつくる。

「ここは〇〇ちゃん担当」「ここは△△くん担当」など、お互いの役割を確認して協同作業を進める。

完成したらみんなで達成感を共有し、互いの頑張りを認め合う体験を重ねる。

ごっこ遊びや簡単なゲームを通して仲間づくりを進めよう！

複数人でのごっこ遊び（お店屋さん、レストラン、病院ごっこなど）で、相互に役割を演じる面白さを体験する。

簡単なゲーム（じゃんけん列車、フルーツバスケットなど）を取り入れ、互いの存在を感じながら楽しむ。

大人が間に入り、「みんなで楽しく参加できたね」「〇〇ちゃんにありがとうと言えたね」など、よい関わりを具体的にフィードバックしていく。



放課後等デイサービスの支援例

グループワークに取り組もう！

小学校中学年から高校生までのお子様を対象に、グループワークに取り組むことがあります。

《一つの課題をみんなで役割分担！》

特に季節ごとの行事に関する活動の時に、グループワークを行うことが多いです。グループに分かれてそれぞれの課題を効率よく進めていくやり方や必要な道具の操作の仕方などを学びます。

また、高学年になると、自身より年齢層が低いお子様に教えることで、人とのコミュニケーションや自身の理解度を上げるようにしています。

季節ごとの行事以外にも、調理実習や畑作業などを行い、役割を決めてお子様が自身に与えられた役割を最後まで遂行できるか、また集団のペースを理解しながら進めていくことができているのか、などの評価や支援を行っています。



その他にも・・・

遠足やお出かけの場所をお子様たちで話し合いながら決める時があるよ！

自分の「行きたい！」「やってみたい！」が叶う場所でもあるんだ！



家族支援・移行支援

家族支援

保護者の方とご相談させていただきながら当施設のご利用時間や支援内容を決定します。
また、ご家庭や園、学校などでの困り感も共有し、生活のサポートをします。

面談等について

保護者の方とご相談させていただきながら当施設のご利用時間や支援内容を決定します。
また、ご家庭や園、学校などでの困り感も共有し、生活のサポートをします。



面談以外でも気軽にご相談を！

また、送迎時や保護者の方がお子様をお迎えに来ていただいた時に、今日の出来事や学校での様子について、お伝えさせていただきます。

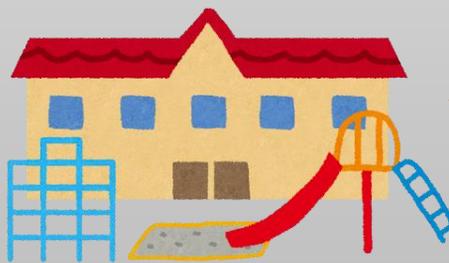


移行支援

園や学校、就業先など、様々な関係機関に職員が訪問して情報共有を行います。情報共有をした先で、お子様がより安心して生活を送ることができるように、サポートをします。

園や学校での困り感への対応方法、園生活から学校生活、または小学校から中学校へ上がる機会、そのお子様の特性についての情報共有を行います。

園や学校の先生と共有した情報については、保護者の方に必ず報告します。



訪問します！



寺子屋 オレンジキッズと

寺子屋 アップルキッズの

お部屋の様子



寺子屋 アップルキッズ

プレイルーム1



プレイルーム2



プレイルーム3



寺子屋 オレンジキッズ

プレイルーム



個別訓練室



お子様の特性や活動のご要望に合わせてご利用方法を考えてみてね！

《児童発達支援》

アップルは個性が強く、オレンジは小集団活動も実施していることが特徴だよ！

《放課後等デイサービス》

アップルでは、小集団活動や肢体不自由児の方の姿勢保持・歩行訓練をしていて、オレンジキッズでは、各職員がお子様の担当になり、それぞれ支援を進めていくんだ！

もちろん！楽しいイベントや集団活動はアップルにもオレンジにもあるよ！



児童発達支援まとめ

支援プログラム		作成日	2025	年	2	月	5	日
法人（事業所）理念	一人ひとりの人権を尊重し将来にわたりご家庭や社会において、その持てる力を十分に発揮した生活が営めるように支援を行います。							
支援方針	<p>感覚統合を遊びに取り入れお子さまの「やりたい」という気持ちを大切に楽しくのびのびと過ごせるようにサポートしていきます。</p> <p>お子さまに合わせて作成したプログラムにより支援を行う個別療育と、基本的な生活習慣を身に付け社会生活を営むための集団療育を行います。</p> <p>また、保護者の方との連携を図る事により療育効果を高め、ご家庭の地域生活の支えとなる事を目指します。</p> <p>お子さまにとっても保護者の方にとっても安心できる場所を提供します。</p>							
営業時間	9時00分から17時00分まで	送迎実施の有無	送迎可能です。ご相談ください。					
支援内容								
本人支援	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の健康状態をチェック ・生活リズム作りのサポート ・清潔習慣、トイレトレーニング ・基本的な生活スキルの習得 ・活動する空間を理解する ・お子様のやりたい気持ちを尊重する ・情緒や活動の管理をする など 						
	運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> ・サーキット運動に取り組む ・特定動作へアプローチをする 道具の操作（日常生活で頻繁に用いられるツールや文房具）の練習をする 年齢、段階別の身体動作評価をする 感覚分野から捉えるアプローチ など 						
	認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> ・形の弁別ができるようになる ・お話を聞いて理解する練習をする ・色々な物に触れて、手の平の触覚から入る感覚を養う ・粗大、微細運動の模倣の獲得 ・分類の学習 数量、数詞、数字（文字）、数順等、かずに関わる知識を身につける ・行為機能についての評価と支援など 						
	言語・コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な活動で言葉の理解を深めていく ・身体を動かす活動を小集団で取り組み、場面ごとの応じたコミュニケーション方法を学ぶ ・絵カードや模倣を通して理解を深める ・書字と音読の練習をする など 						
	人間関係・社会性	<ul style="list-style-type: none"> ・スキンシップや対面遊びでお子様に安心感を育む ・不安や困りごとを相談できる場所をつくる ・模倣支援では、絵カードや人形などを活用して非言語コミュニケーションを学ぶ ・触れ合い遊びやダンスを通して楽しく模倣を学ぶ ・感覚遊び、運動遊びを通して象徴遊びへステップアップする ・見立てや遊びやごっこ遊びで想像力を広げる ・並行遊びから連合的な遊びへ移れる環境を整える ・役割、ルールを守る共同遊びにチャレンジ ・自分の得意、苦手と一緒に見つける など 						
家族支援	保護者の方とご相談させていただきながら当施設のご利用時間や支援内容を決定します。また、ご家庭や、園などでの困り感も共有し、生活のサポートをします。保護者の方とご相談させていただきながら当施設のご利用時間や支援内容を決定します。また、ご家庭や、園などでの困り感も共有し、生活のサポートをします。	移行支援	園での困り感やそのお子様の特性についての情報共有を行います。また年長時期になると、小学校への進学を見据えて、小学校の先生とも情報共有を行う場合があります。					
地域支援・地域連携	園や小学校など様々な関係機関に職員が訪問して情報共有を行います。情報共有をした先で、お子様がより安心して生活を送ることができるよう、サポートをします。	職員の質の向上	社外研修に積極的に参加します。また、社内研修（勉強会、OJT）も定期的開催しており、お子様一人ひとりの理解を深めています。					
主な行事等	季節ごと（お花見、梅雨、ハロウィン、クリスマス、節分、ひな祭り、卒園式など）の制作活動をしします。ハロウィン、クリスマスパーティを開催しています。お子様に楽しんでいただけるように、日頃取り組んでいる支援内容とテーマを組み合わせた活動を実施しています。							



放課後等デイサービスまとめ

支援プログラム		作成日	2025	年	2	月	5	日
法人（事業所）理念	一人ひとりの人権を尊重し将来にわたりご家庭や社会において、その持てる力を十分に発揮した生活が営めるように支援を行います。							
支援方針	<p>感覚統合を遊びに取り入れおさまの「やりたい」という気持ちを大切に楽しくのびのびと過ごせるようにサポートしていきます。</p> <p>おさまに合わせて作成したプログラムにより支援を行う個別療育と、基本的な生活習慣を身に付け社会生活を営むための集団療育を行います。</p> <p>また、保護者の方との連携を図る事により療育効果を高め、ご家庭の地域生活の支えとなる事を目指します。</p> <p>おさまにとっても保護者の方にとっても安心できる場所を提供します。</p>							
営業時間	9時00分から17時00分まで	送迎実施	送迎可能です。ご相談ください。					
支援内容								
本人支援	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の健康状態をチェック ・生活リズム作りのサポート ・清潔習慣、トイレトレーニング ・基本的な生活スキルの習得 ・活動する空間を理解する ・お子様のやりたい気持ちを尊重する ・情緒や活動の管理をする など 						
	運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> ・サーキット運動に取り組む ・特定動作へアプローチをする 道具の操作（日常生活で頻りに用いられるツールや文房具）の練習をする 年齢、段階別の身体動作評価をする 感覚分野から捉えるアプローチ ・日常生活に必要な道具の操作の練習に加えて、就業を見据えた取り組みを実施など 						
	認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> ・形の弁別ができるようになる ・お話を聞いて理解する練習をする ・色々な物に触れて、手の平の触覚から入る感覚を養う ・粗大、微細運動の模倣の獲得 ・分類の学習 数量、数詞、数字（文字）、数順等、かずに関わる知識を身につける ・行為機能についての評価と支援 ・教科学習への取り組み など 						
	言語コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な活動で言葉の理解を深めていく ・身体を動かす活動を小集団で取り組み、場面ごとの応じたコミュニケーション方法を学ぶ ・絵カードや模倣を通して理解を深める ・書字と音読の練習をする など 						
	人間関係社会性	<ul style="list-style-type: none"> ・スキンシップや対面遊びでおさまに安心感を育む ・不安や困りごとを相談できる場所をつくる ・模倣支援では、絵カードや人形などを活用して非言語コミュニケーションを学ぶ ・触れ合い遊びやダンスを通して楽しく模倣を学ぶ ・感覚遊び、運動遊びを通して象徴遊びへステップアップする ・見立てや遊びやごっこ遊びで想像力を広げる ・並行遊びから連合的な遊びへ移れる環境を整える ・役割、ルールを守る共同遊びにチャレンジ ・自分の得意、苦手と一緒に見つける ・グループワークに取り組み、集団で物事の目標を決め何が必要なのか手順を考える など 						
家族支援	保護者の方とご相談させていただきながら当施設のご利用時間や支援内容を決定します。また、ご家庭や園、学校などでの困り感も共有し、生活のサポートをします。保護者の方とご相談させていただきながら当施設のご利用時間や支援内容を決定します。また、ご家庭や園、学校などでの困り感も共有し、生活のサポートをします。	移行支援	学校での困り感への対応、園生活から学校生活、小学校から中学校または中学校から高校へ進学する機会、そのおさまの特性についての情報共有を行います。就労や就業を見据え、就労・就業先への見学訪問、情報共有を行います。					
地域支援・地域連携	学校、就業先などの関係機関に職員が訪問して情報共有を行います。情報共有をした先で、おさまがより安心して生活を送ることができるよう、サポートをします。	職員の質の向上	社外研修に積極的に参加します。また、社内研修（勉強会、OJT）も定期的開催しており、おさま一人ひとりの理解を深めています。					
主な行事等	県外遠足、ハイキング、山登り、工芸体験、工場見学、就労体験、お花見やプールなど季節に合わせた行事、お誕生日会など、様々な行事があります。							

